

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873100648		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホームたんぽぽ	ユニット名	(西館)
所在地	茨城県小美玉市橋場美20-1		
自己評価作成日	令和2年8月25日	評価結果市町村受理日	令和 2年 12月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvovyCd=0873100648-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート		
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階		
訪問調査日	令和2年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルスにより自粛生活の今外出や家族との面会も出来ずにいます。利用者様が孤独、ストレスに感じない様リクリエーション、や傾聴の時間などを多く設け出来る場所はお手伝いして頂きながら毎日家庭的な雰囲気です。事業所の近くに母体の病院があり緊急時にはすぐに駆けつける対応ができて医療的な面で安心して生活できます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は医療法人が運営母体ということもあり、協力医療機関の医師による訪問診療や訪問看護の他、緊急時には24時間で母体病院への搬送もあり、利用者や家族、職員の安心に繋がっている。代表者は食事が大事と考えており、食事が利用者の楽しみとなっている。事業所理念にある家庭的な雰囲気を大切に、利用者は穏やかに暮らしている。大正琴や折り紙が得意な利用者が講師になり他利用者や職員に教える等、利用者の能力を引き出した生活の支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を大切に家庭的な雰囲気の中で入居者の一人一人の個性を尊重し安らぎのある日常生活を支援しますという理念があり、心構えとして「やさしく、しんせつ、ていねいに」を守った対応を心掛けている。	理念を事務所に掲示するとともに朝礼時に確認をしている。事業所理念にある家庭的な雰囲気を大切にしながら、法人のモットーである「やさしくしんせつていねいに」を心掛け支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年まではボランティアを積極的に受け入れたり近隣の方々や利用者様のお友達を施設の行事に参加していただいたりしていたが、今はコロナウイルスの影響で自粛生活となっている	同法人近隣施設と合同で夏祭りやイベントを開催し、近隣住民を招待している。リハビリ体操やシルバーボランティアが来訪している。(現在は自粛中)近隣の住民から野菜や果物などの差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は常に認知症について理解しており推進会議を行う事で、地域、家族、民生委員と共に認知症高齢者の支援について話合う機会を設けている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は書面にて行い、家族、民生委員、の方々に議題などをお知らせしそこで得た意見や施設内の意見などを議事録に残すと共に情報を送付している	家族等の代表や市職員、民生委員、地域住民等が参加して定期的に行っているが、直近は文書での開催となった。委員である元職員の看護師が感染症等、時期に合わせた勉強会を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者や地域包括との情報交換や相談連絡など日頃から協力的な体制の構築に努めている	市担当者が毎回運営推進委員会に出席している。要介護更新申請や相談は窓口に出向いており、何かあれば相談できる関係を構築している。生活保護受給者がおり、年1回福祉課の来訪がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については内部研修を行い再確認し共有し支援している。やむを得ず身体拘束をする場合にはご家族様に必要性などを十分説明した上で書面で同意を得るようにする。経過観察、再検討記録を用い拘束0を目指す	高齢者虐待防止ポスターが廊下に掲示されている。朝礼時に管理者が職員に理解できるように具体的に説明している。身体拘束適正化委員会を設置し身体拘束廃止に関する指針やマニュアルを整備し3か月に1回委員会を開催している。議事録を作成しているが、職員の研修を行うまでには至っていない。	既存のDVDを活用する等、職員が参加しやすい方法での身体拘束の研修を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてはマニュアルを設置しており参考にしている。職員は常に利用者の人権及び尊厳を守り介護に努めている。特に言葉の暴力には気を付けて対応している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性を管理者と話し合い利用者の人権を脅かさないように日々の介護に活かし支援している。また市の担当者との連携を図り日頃から情報交換をするなどしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書、料金表等で理解をいただくまで十分な説明を行い契約解除の際は利用者、家族の不安や疑問など聞いたうえで十分な説明をし納得いただける様にしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、意見箱の設置窓口を設け説明書の明記をしている。面会時や日々の会話の御家族、利用者の意見や要望を聞きサービスが快く受けられるように配慮している	家族等のアンケートでは改善要望は出ておらず、面会時や日々の会話の中で意見や要望を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見や要望を聞き又適切なものは介護に反映できるよう対応している	管理者は日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに毎日の朝礼時に話を聴くようにしている。職員から備品購入の希望がある時には業務に支障が無いように対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営母体での月1度の定例会議において意見や要望等話し合う機会があり職員待遇への反映や向上心をもって働けるよう配慮、対応に努めている、		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は研修に参加出来る環境にあるが今はコロナウイルスの為研修に参加はしていない。その為ミーティングでマニュアルを基に全員で研修、講習を行う様にしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今はなかなか外部との交流を設ける機会ができないが、コロナウイルスが終息した際には勉強会や訪問を通して「サービスの質」の向上に取り組みたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や不安などを傾聴し安心して暮らせるように強めている。また利用者の要望を把握し個別支援計画を作成している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の契約は時間を多く設け丁寧に説明しています。家族、からの要望、困りごとなどをよく聞き何かあれば気軽に話してもらえる雰囲気づくりを心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンスにて本人の希望や家族の意向などよくお話を聞きサービスに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人と苦楽を共にし、一緒に暮らし支え合いながら関係を深めていけるよう支援している		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との絆を大切にしながら、気軽に面会に来てもらえる様働きかけている。現在はなかなか面会も出来ないが希望があれば玄関にて、硝子越しではあるが面会が可能となっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の取り次ぎや友人たちとの面会場所との関係が継続できる様支援している	電話の取次ぎや手紙等、今までの関係が途切れないように支援している。入所時のヒアリングで把握し個人ファイルに記載している。利用者との日々の会話や家族からの情報を聞き取り、朝礼で共有している。感染症流行前は自宅に外出や外泊も家族の協力の下、行っていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った人同士、一人一人が孤立せず所々に長椅子を置き話しやすい様にしている。職員も気軽に声掛けでき相談できる場所作りとなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も今までと変わらず電話や近くに来た際には立ち寄ってもらえるような関係づくりに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や希望に添えるように努めている。洗濯干し、部屋のお掃除、新聞を読んだり、折り紙、点結びをしたり様々な毎を過ごしている。困難な場合でも出来るだけ本人の意向に添える様、検討している	野菜作りが得意な利用者がおり職員と一緒に家庭菜園をしたり、除草作業をしている。本人の希望を尊重し役割を持てるよう支援している。現在意思疎通が困難な利用者はいないが、困難な場合には表情や仕草で読み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしぶりや生活環境、サービス利用など家族、本人、情報提供書などから把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人一日の過ごし方や性格、病状などの違いがありまた心身状態は日々変化があるので、少しの変化も見逃さない様に利用者の観察に徹している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題とケアのあり方について本人、家族、管理者、ケアマネジャーと話し合い意見交換しそれを職員でアセスメント、カンファレンスし、本人がより良く暮らせるような介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、基本半年で見直しを行っている。家族面会時に同意書にサインをもらっている。来られない家族には郵送し返送してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいた事などを、ケース記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や計画の見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望や訴えをよく聞き、必要に応じて支援やサービスの機能改善に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々、小、中高性、ボランティアの方々のお手伝いをお願いし協力しあいながら安全でその人らしい穏やかな生活が出来る様支援していきます		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に今まで同様のかかりつけ医の受診が受けられる様支援しています	協力医療機関の外来受診が2ヶ月に1回と訪問診療が月2回、訪問歯科診療が月1回、訪問看護が週1回ある。以前からのかかりつけ医への受診などは家族等が付き添っている。バイタルや日々の様子を書面にして記載し医師に渡してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で、情報や気づき、状態の変化など外来受診時や訪問看護師に伝え相談している。利用者の方が適切な受診や看護を受けられる様に支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院との情報交換、連絡を密にとり、安心して治療が受けられる様病院側との関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の際、家族、の方と十分な話し合いを行い説明している	重度化や看取りに関する同意書がある。重度化や看取りのマニュアルを作成しているが、職員は「終末期ケアマニュアル」を配布したのみで、研修を行うまでには至っていない。	職員に配布した「終末期ケアマニュアル」を基に母体病院訪問看護師等による研修の開催を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルが各棟に掲示しており、職員は日頃から意識し緊急時にはマニュアルに従い対応できるように定期的に訓練を行い実践力を向上させている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している(夜間体制・地震災害訓練)。コロナウイルスにより通報訓練のみになってはいるが近隣の方々や地域との協力体制を今後も大切に続けていきたい	夜間想定を含む避難訓練を行っている。訓練後は反省会を行い、課題について話し合っている。災害に備えた備蓄品と一覧表を作成して保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を傷つけない言葉かけに気を付けて対応している。職員間で常に確認し合っている	利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮している。個人情報に関する同意書があり、人権尊重や守秘義務について規程等を定めているが研修を行うまでには至っていない。	本部幹部会議の際にプライバシーに関する研修の開催後、管理者が講師になり内部研修を行う事等、負担の少ない研修の開催を期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれが自分の思いや希望を表すことが出来る様、時間をゆつくりとり、せかすことなく待つことの大切さを心掛けています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを尊重し思いのまま過ごしていただけるように心掛け自分で決定できるように心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回床屋、美容師が入っています。ヘアースタイルも服装も好みのものとなっているおしゃれを楽しめるよう支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けを一緒にしたり、毎日の献立表も見やすい所に提示している。、食事が楽しいものとなるよう支援しています	利用者の好物や苦手な物を踏まえた献立の工夫をしている。野菜づくりが好きな利用者が育てたものを調理し食卓を賑わせている。法人でおかずを調理し、ご飯と味噌汁は事業所で調理して職員も利用者と同じものを一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表や食事。水分表などにて記録し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前後のうがい、歯磨きを行っています。できない方への声掛け介助にて対応。希望があれば訪問歯科診療受診を提供しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくオムツをしないことを目標にしている。排泄パターン、定時でのトイレ誘導や兆候を見逃さないよう見守るとともに、自立にむけての支援をしている	それぞれの排泄パターンを把握し、できるだけトイレでの排泄を支援している。退院時におむつ使用していた利用者が支援によりリハビリパンツとパットになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し毎日の排便を確認している。状態に応じ水分補給や軽い運動で自然排便が出来る様に心掛けている。場合によっては下剤を使用する事もある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴。2棟別々に曜日を設定している。体調が悪かったり、外出で入れない場合は翌日の入浴となるよう配慮している	気分転換のための入浴剤を時々使用している。清拭や足浴、夏場にはシャワー浴等利用者に合わせた支援をしている。2ユニットで入浴日が異なり意向があれば対応可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムづくりでボール投げやラジオ体操、散歩など活動の場を設けている。少しの時間ではあるが、午後の睡眠タイムで気分良く寝られる様支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の内容は個人のケース記録に保管し薬の内容、副作用等把握できるようにしている。2名の職員のチェックで誤薬に注意をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族などから昔の事を聞いたりしてその人が生き生きと喜びのある生活ができる様支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスにより外出は控えさせていた。面会は玄関ドア越しにさせていた。例年なら散歩、花見、食事など支援しています	感染症流行前には年間行事計画を立てて、車いすの利用者も一緒に花見やドライブ、各地の見学などに訪れていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の希望や能力に合わせてお金を管理していただいている。マッサージ料を支払っている方もいます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人への手紙の投函や各棟の固定電話の取りつぎ、かける時の支援も行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓から見える景色は季節の花々が咲きブルーベリー、タラの芽など収穫し食卓のせている。キジの雄雌も見られる	食堂兼居間のテレビ近くにはソファがある。一角の小上がりの和室の壁には、行事の写真が掲載してある。食堂兼居間の前にはウッドデッキがあり、外気に当たれるようになっている。敷地内で利用者が野菜を育てたり草取りをしている。折り紙や大正琴が得意な利用者が講師になり職員や他利用者に教えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置いて気の合った利用者同士で座れる場所を作っている。自由に過ごせる時間、居場所の工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で慣れ親しんだ思い出の品などを家から持ってきていただいています。家族の写真を飾ったりそれぞれの方に合った居室づくりをしている	居室は掃き出し窓でベランダに出られるように作られている。居室の入り口には手書きの表札とそれぞれ違った造花が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事を理解、その人の力の応じた行動を見守り安全に過ごせるよう工夫している(洗濯たみ、干し。テーブル拭き、モップ掛け。ゴミ出し、草取りなど)		

(別紙4(2))

目標達成計画

グループホーム たんぽぽ

作成日 令和 2 年12 月 10 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目
水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	12	基本看取りを行わないことになっておりマニュアルだけでなかなか研修までには至らないのが現状である	内外問わず看取りに関する研修があった場合は進んで参加出来るような体制を整える	看護師に施設内で終末期ケアに関する研修をして頂く様にする	3ヶ月
2	5	身体拘束に関しては職員も十分に理解してケアに取り組んでいるが毎日の介護と他の研修もあり身体拘束に関する職員研修まで行っていない	年1回は身体拘束に関して職員間での話し合いの場を設ける	DVDを各職員が順番に持ち帰り視聴しその感想や意見を施設研修として職員間で話し合う	6ヶ月
3	14	職員は利用者の人格を尊重した上で利用者に対して対応を考え特に言葉使いには気を配り傷つけない様に配慮しているが接遇に関する研修までには至っていない	再度人格を尊重した対応とプライバシーに関して考え研修を開催する	次回の定例会議にてプライバシーに関する研修を開催して頂く様に提案し、職員も参加するようにする	1年
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。